

# 12万年前の岩とお不動様。

豊後大野シオパークには9万年前阿蘇山がおこした大火砕流が固まったもの、阿蘇4溶結凝灰岩を多く見ることができ、たくさんの磨崖仏がそこに刻まれています。阿蘇山は、この9万より以前にも大きな噴火を繰り返しており、およそ12万年前にも大きな噴火をおこしました。その時でも大規模な火砕流をおこし、周囲を覆い尽くして冷えて固まりました。その固まった岩が阿蘇3溶結凝灰岩と呼ばれています。普光寺の阿蘇3溶結凝灰岩は、溶結(固まり方)が弱くもろい性質を持っています。不動明王のお顔が優しいのも、この影響があるのかもしれない。



この丸いお顔は当初からそうであったとは考えにくく、約800年間の間風雨にさらされたためにとても優しい表情になったと考えられます。

## 1 普光寺磨崖仏

普光寺磨崖仏は不動明王を中心とした、三尊像で、中央の巨大な仏像が不動明王で、向かって右に矜羯羅童子、左に制陀迦童子が配置されています。

不動明王は、弁髪を垂らし、右手に剣、左手に羂索をさげ、憤怒の相で現されますが、全体的に丸い印象があり憤怒の相は伝わりません。しかし、口元には確かに上下に牙がでており、こうみえても怒っていることがわかります。



1

2

3

足元注意

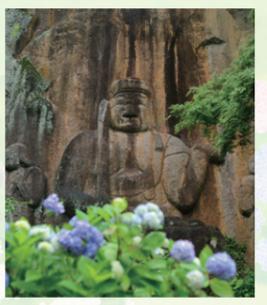
階段注意



カメラポイント  
表紙の撮影はここから撮影したものです。

## 普光寺と磨崖仏と紫陽花

普光寺は、別名「紫陽花寺」と呼ばれるほど、たくさんの紫陽花が植えられています。梅雨時期になるとたくさんの紫陽花の花に埋もれた磨崖仏を見ることができます。これらの植生は、お寺と地域の方により守られています。

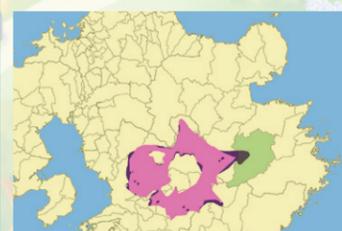


## 阿蘇山大噴火の痕跡、阿蘇溶結凝灰岩の分布

阿蘇山は過去に4度、大きな噴火をおこしたとされています。その時発生した火砕流の規模は、冷えて固まり残された阿蘇溶結凝灰岩によってわかります。



およそ27万年前の大噴火



およそ14万年前の大噴火



12万年前の大噴火



9万年前の大噴火

## 2 大きな仏龕と 3 投込堂

磨崖仏の左手の大きな仏龕には、大日如来を祀った祠と懸作り舞台があり、その奥には投込堂「護摩堂」があります。これらは、江戸時代になってから造られたと言われていて、普光寺が長く修験の地として活躍したことを表わしています。この岩窟内の岩肌にはたくさんの黒い点が見えますが、これはスコリアと呼ばれる軽石の仲間がこの岩がもともと火砕流であったことを示す貴重な証拠です。

12万年前に自然が作り出したもの、修験という人の営みとあわさってきた普光寺の境内、両者は意図せず巡り合いお寺の雰囲気をつくりだしています。